

避難するとき

台風や大雨などによる災害が発生したり、火災が発生して避難しなければならぬとき、次の事に注意しましょう。

- 非常持ち出し品は日ごろから準備しておきましょう。
 - 非常持ち出し品は日ごろからよほど準備しておかないと、緊急時に何をもって避難してよいのかわからなくなり、そのために避難が遅れ、取り返しのつかないこととなります。
 - 非常持ち出し品はリュックなどにまとめて入れておき、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。
 - 定期的に内容を点検し、いつでも使えるようにしておきましょう。
 - 持ち出すうえでの各自の分担を決めておきましょう。
 - 非常持ち出し品の内容は食料品、衣類、携帯ラジオ、懐中電灯、ローソク、マッチ、救急薬品など必要最小限にしましょう。
- 避難は一刻を争います
 - 何よりもまず、家族そろって近所の人たちと一緒に避難し、単独行動はしないようにしましょう。
 - 玄関の高めのところに避難先などの伝言を書き付けたり、張り紙をしておきましょう。
 - いざというときに、外出中の人にはどのような行動をとり、どこへ避難するのかについて、日ごろから家族の間で話し合っておきましょう。
 - 避難指示等がでたら、外出中の家族を待たずに避難しましょう。
 - 外出中の人には、自宅付近の様子や途中の交通機関、道路が安全かどうかははっきりするまで、あわてて家へ帰らないようにしましょう。
 - 学校の場合、児童や生徒の避難や帰宅のさせ方についての方針を各家庭に徹底しておきましょう。
 - 服装は身軽で、暖かいものを着用しましょう。
 - 素足は危険ですから、必ず靴などはいて行動しましょう。
 - 持ち物は非常持ち出し品など最小限にしましょう。
 - 切れた電線や倒れた電柱などに近づかないようにしましょう。
 - 狭い路地、塀際、がけ下、川べりは通らないようにしましょう。
 - 幼児、お年寄り、病人等のいる家庭は、隣近所で助け合うようにしましょう。
 - 市や警察、消防、自治会などの責任者の誘導に従いましょう。
 - あわてず沈着冷静な行動をとりましょう。

●避難所は次のとおりです。近いところに避難しましょう。

●荒田小	●武岡小	●名山小	●和田中
●伊敷小	●谷山小	●明和小	●鹿児島商業高
●宇宿小	●玉江小	●八幡小	●鹿児島中央高
●改新小	●大明小	●山下小	●鹿児島電子工業高
●鴨池小	●大竜小	●吉野小	●鹿児島東高
●川上小	●中山小	●吉野東小	●玉竜高
●錦江台小	●中郡小	●和田小	●甲南高
●黒神小	●中洲小	●伊敷小	●鶴丸高
●花野小	●西伊敷小	●鴨池中	●ラ・サール高
●高免小	●西谷山小	●甲東中	●鹿児島経済大
●向陽小	●西田小	●清水中	●鹿児島短大
●坂元小	●西紫原小	●城西中	●中央公民館
●桜丘西小	●原良小	●西山中	●田上団地公民館
●桜丘東小	●東桜島小	●谷山中	●小野市民館
●清水小	●平川小	●谷山北中	●坂之上福祉館
●城南小	●広木小	●天保山中	●西部第一団地集会所
●西陵小	●福平小	●長田中	●市日当平住宅集会所
●清和小	●星峯西小	●緑丘中	●特別養護老人ホーム
●草牟田小	●松原小	●紫原中	●三船園
●田上小	●宮川小	●吉野中	●鹿児島中央農協
●武小			●下伊敷支所

●わが家の防災メモ

●非常持ち出し品		●家族の連絡先	
非常袋	分	な	ま
水	担	え	え
緊急食糧	担	ま	え
トランジスタラジオ	担	ま	え
懐中電灯	担	ま	え
下着類	担	ま	え
救急薬品	担	ま	え
貴重品	担	ま	え

火災のほとんどが火災

火災は、そのほとんどが火災といわれ、鹿児島市で発生した火災の大部分は、天ぷら油の発火、火遊び、たばこの始末など人の不注意によって起こっています。火事を出さないため、市民一人ひとりが防火に努めましょう。



火事のときの4チェック

火を使うとき、次の四つの事に注意すると、火事を出すことはありません。これを「防火の4チェック」といいます。

- ①危険な場所ではないか
- ②器具は安全か
- ③使い方は正しいか
- ④あと始末は安全か

●台所で火を使うとき
●電話や来客の応対に出るときは、必ず火を消しましょう。
●コンロの近くは整理整頓し、燃やさないものを置かないようにしましょう。

●コンロの近くの壁板や天井は不燃材でおおきましょう。
●コンロのホースがもろくなったら思ったら、すぐ取り替えておきましょう。
●コンロの使用後は、必ず元栓を閉め、必ず火を消しましょう。

火事のとき



61・7・10豪雨によるがけ崩れ

災害からあなたを守るために

昭和60年8月31日の13号台風、昭和61年7月10日の集中豪雨などにより、鹿児島市が2年連続大きな災害を被ったことは、記憶に新しいところです。

鹿児島は台風の常襲地帯で、そのうえシラスという特殊な土壌が多いため、災害が発生しやすく、更に活動的な桜島火山をかかえています。いったん災害に襲われると、その被害は甚大となり、多くの尊い生命や財産を失うことになりかねません。

市民の皆さん一人ひとりが正しい防災の知識を身につけることによって、被害を最小限に防ぐことができると考え、ここに防災の特集を発行しました。隣り近所の人たちと助け合いの精神で、地域の効果的な防災活動を行うための、自主的な防災組織づくりをしましょう。

防災の問い合わせは市防災火山対策課⑩1111へ

桜島火山大爆発のとき



桜島火山噴発総合防災訓練 (62・1・12)

避難集結乗船場所

●野尻町は野尻港	●有村町は有村港
●持木町は持木港	●黒神町は塩屋ヶ元港・宇土港
●東桜島町は湯之港	●高免町は園山港・高免港・浦之前港
●古里町は下村港・宮下港	

●各個人で避難する場合は、氏名、人員、避難先などを必ず避難誘導責任者に届け出ましょう。

台風や大雨のとき

台風や大雨に備えて
台風等が近づいてきたときは気象台から発表される台風情報や大雨情報に十分注意しましょう。台風や大雨でいちばん被害を受けるのが、家屋とその周辺です。梅雨入り前や台風シーズン前には、次のような事に注意し十分な準備をする必要があります。

- 自分の家がどんな立地条件にあるかを知り、その対策をたてておきましょう。
- 家の内外の点検を行い、側溝や下水は流れに注意しておきましょう。
- 屋根や塀など、造作物は補修しておきましょう。
- 住居付近の地形からみて、どのような災害が起きやすいかを調べておきましょう。
- がけ崩れの恐れのあるところでは、水路などの流れをよくしておき、崩れやすい土地はビニールなどで地肌をおおひ雨水の浸透を防ぐようにしておきましょう。
- 床上床下浸水に備え、家の中の低い位置の物は高い所へ移さないか確かめましょう。
- ガス管などが壊されていないか確かめましょう。
- 浸水したときは、畳・床・腰板などはできるだけ早く水で洗い流し、クレンザーなどで消毒しましょう。また、床下には石灰を散布しておきましょう。
- 家の周りを清掃しましょう。



60年13号台風で倒れた電柱

し、家の周りの流れをさそうな物は片付けましょう。
●家が壊れている場合、かわらなで落ちてくる物はないか、危険はないかなど注意しましょう。
●電線が切れたり、たるんだりして、建物や木の枝にぶれておきましょう。

地震のとき

大揺れは1〜2分間
地震は前触れなしに突然起こります。どんな大きな地震でも、大揺れは1〜2分間でおさまるといわれています。

地震を感じたら
大揺れは1〜2分間
あわてず周囲の状況を判断して冷静に行動しましょう。

地震を感じたら
大揺れは1〜2分間
あわてず周囲の状況を判断して冷静に行動しましょう。

●まずは身の安全
●テーブルなどの下から身を伏せましょう。
●家具は普段から倒れないように固定しておきましょう。
●ブロック塀、石垣などのそばから離れましょう。
●道路を歩いているときは、落下物に注意しましょう。
●海岸では津波の恐れがあるので、安全な場所(高い所)へ避難しましょう。
●建物が瞬間的につぶされることは、極めてまれです。外に飛び出すより、建物の中で様子を見てから、非常の際の際、出口と脱出方法を考えておきましょう。また、ずきんやヘルメットを準備しておきましょう。

●火が出たらすばやく消火
●消火器を備えたり、消防用水を準備しておきましょう。

●デパートなど大きな建物の中にいるときは、あわてて出口や階段に殺到するのは危険です。停電でも、非常出口を見定め、冷静に行動しましょう。

●すばやく火の始末
●小さな地震でも火を消す習慣をつけましょう。
●発火性、引火性の危険物は倒れたり、落下したりすると出火しやすいので注意しましょう。

